

## 5.2 説明文の音読・シャドーイング指導

ペアワークを利用して指導を行う。

- ・ペアは学力と希望によって組み合わせられたリーダーとパートナーによる固定制にするとよい。学力差のある生徒が互いに協力し合うことで、共に伸びようとする態度が育ち、活気ある授業となり、結果的に学力も向上させることができる。

### 5.2.1 授業の流れ

- ・教科書本文の内容理解後の音読練習を中心に据えて、その後、本文の内容理解をさらに深めるための会話文を作成することを目標とする。
- ・初めての英文に対応できるよう予習はさせていない。
- ・新出文法事項の指導は事前に終えてある。

### 5.2.2 教材例

p.153 を参照

### 5.2.3 指導例

- (1) 教師によるオーラル・イントロダクション
- (2) フラッシュカードを使った新出語の練習
- (3) 音読練習 1：リッスン・アンド・リピート
- (4) 音読練習 2：日英通訳演習
- (5) 音読練習 3：全体読みでのリード・アンド・ルックアップ＋メモリー・リーディング(p.60)
- (6) 音読練習 4：パラレル・リーディングとシャドーイング
- (7) 音読練習 5：ペアで行う空所補充音読
- (8) 会話文作成(ペアやグループで会話文を作り、音読する)

## 5.3 物語文の音読・シャドーイングの指導

中学校での物語文の登場人物のセリフ部分の音読や物語展開に応じた情動豊かな表現活動としての音読は、意味を意識しながら音のつながりやプロソディーに慣れさせるために有用である。日本語による説明なしにオーラル・インタープリテーションを繰り返すことが効果的である。

### 5.3.1 授業の流れ・5.3.2 教材例

pp.159~160 を参照

### 5.3.3 指導例

- (1) 1回目のオーラル・インタープリテーションとストーリー展開把握
- (2) オーラル・インタープリテーション 2回目と内容把握
- (3) モデルをまねて抑揚豊かに行う音読練習
- (4) グループごとのオーラル・インタープリテーション

#### 感想・考察

今回の章で一貫して言えることは「音読は繰り返すことが大切」だということである。やはり音読は何度もやらなければ効果が無いということはこの章で再確認した。

中学・高校と音読は行われてきたが、今思うと十分な回数が行われていなかったように思える。単語の発音が分からないまま意味とスペルだけを覚えているということが多々あった。単語の発音を覚えるためにも実際に音に出して読む活動を多く授業に取り込む必要があるだろう。